



【第二回研修会開催レポート】

LFPパートナーの皆様

こんにちは！静岡LFP事務局です。

先日12月22日に開催した「第二回研修会」の様子をお届けします！今回は、リアル開催！懇親会も実施！今年度のビジネス事業者を中心として、さらなる連携の可能性や、お互いの会社やビジネスについての理解も深まりました！

第二回研修会 参加LFPパートナー

酪農王国株式会社

竹部／自然塾

ホシザキ湘南株式会社

株式会社 タカラ・エムシー

株式会社80&Company

ふじのくにの旬を食べ尽くす会

株式会社tane

株式会社TSUTAERU

岩品農園

梅工房おおいし

株式会社天神屋

株式会社共立アイコム

今回の第二回研修会においては、令和5年度のビジネス採択を受けた2グループから進捗状況や、試食の実施を行いました。アンケートを実施し、開発メニューに対してメンバーから様々な意見をいただきました。後半の部では、令和6年度に向けたアイデア意見交換会を実施。2テーブルにわかれてグループセッションを行いました。

普段パートナーの皆様それぞれが活躍されている分野から静岡の強み(地域資源)や地域課題について、意見が出てきました。

多くの資源がある静岡ならではのかなと思いますが、アイデアが広がっていくと同時に絞り込んでいくというのが難しい点だと思います。今回の議論では、後半に進むに連れ、異業種ならではのかけ合わせの意見や、循環、連携という視点から、いくつかのアイデアまで落とし込んでいったグループもありました。



自然塾の試作品
「メンマ亥のイチパン」

LFPの皆様からの意見では、共通の話題も見えました。

①教育

様々な分野で次世代に向けた教育と自社のビジネスを結び付けた取り組みが盛んです。静岡LFPで活用しているガストロノミーツーリズムにおいても、その土地ならではの文化や歴史と食体験による誘客の要素を含んでおり、その親和性を感じます。

②サプライチェーン

従来のサプライチェーンではなく、異業種、多業種と連携した循環型の新しいサプライチェーンにより、生産～消費～処理まで商品のライフサイクルを全体でとらえていくアイデアや考え方がどちらのチームでも生まれていました。

③共通言語化

地域課題はそれぞれ感じていることや言葉から受ける印象が異なり、例えば「耕作放棄地」と言っても、それがどんな影響を及ぼして、自分にとってどんな意味があるのかと考えていくいわゆる「自分事化」が難しい側面もあります。ただ、この課題をフロー化していくと、

耕作放棄地が増える → 獣害が増加 → 危ないから人が住まなくなる

と少しずつ近い距離になっていくことがわかります。

こういった理解は現場を知るとともに、異業種のLFPの議論を通じて一気に理解が深まっていくことを体感しました。

中央LFP総合プロデューサー、地域コーディネーターからもそれぞれ意見をいただきました。

八木橋地域コーディネーター：

- ・LFPはプロダクトを作ることが目的ではない。新しい仲間づくりが目的。
- ・人を巻き込んでいける共通のテーマとストーリーを整理していくことで連携が生まれていく。
- ・静岡県の日本一がなかなか伝えきれていない。
- ・単年ではなく複数年で長期的に取り組むことで、去年の実施企業が今年の実施企業とコラボなども生まれていく。

千葉総合プロデューサー：

- ・時代の変化はビジネスチャンスでもある。
- ・社会課題とビジネスはなかなか連携が難しいことは皆さんも感じていると思う。
- ・その時に共通になるのは、「未来ビジョン」、将来にまで持続可能な地域事業をみんなで夢を描いていくことがソーシャルインパクトにつながっていく



令和5年度の採択2グループは、年明けから消費者品評会を予定しております。
詳細情報はまた別途送付させていただきますので、ぜひご参加いただけますと幸いです。

また、令和6年度に向けたビジネスアイデアをもう少し具体化していくという取り組みを開始します。
こちらはまた別途ご案内させていただきます。
ぜひ、アイデアがある方はお声かけいただけますと幸いです。

それでは皆様、引き続きよろしくお願いたします！ 良いお年をお過ごしくださいませ。



(執筆:事務局鈴木)